

# 羊と共に多世代が地域の資源を活かす場の創生

研究代表者：金藤 克也

(一般社団法人さとうみファーム 代表理事)

実施者・協力者： 宮城大学食産学部・事業構想学部、帝京科学大学生命環境学部、清水港飼料株式会社

実施地域： 宮城県本吉郡南三陸町

## 背景

南三陸町は、震災前より過疎高齢化が進んでいる地域でした。震災後は人口減少率が下がっているが、復興事業による業者関係者、ボランティア関連の人口流入が考えられる。8割近くの建物、施設が津波により流失し3次産業に与えた被害は甚大なものでした。その為職種の減少、特に若い世代が働ける場が極端に少なくなっています。

## プロジェクトが目指すもの

<目標>

- ①高齢者から子どもまで参画できる職場・コミュニティーの創出
- ②地域資源を活用した持続可能な産業の創出
- ③羊牧場をモデルとした持続可能な多世代共創社会システムの構築及びスキームの作成

<明らかにしたいこと>

- ・本プロジェクトを実施する地域社会における多世代共創とは？
- ・多世代が自然に集まり、無理なく参画できる場とは？

羊を飼育・活用する事で

- ・幼児から高齢者まで、無理なく参画できる。



- ・孫を連れて、空いた時間に働きに来る。
- ・遊びながら、紡いだり編んだり、羊毛から製品が作られる事を学ぶ。
- ・高齢者から伝統的な技術（紡ぎ・染色等）を学び、次世代に継承する。

## プロジェクトにおける持続可能性、多世代共創



もともと遊牧民は羊を中心に持続可能な生活を営んでいたが、資本経済により破たんし始めている。そこで、過疎地域で羊を取り入れ、互助経済を元に持続可能なシステムの構築を目指します。

## ◎多世代が住みやすい地域の創造

- ・幼稚園・小学校等による活用促進
- ・地域イベントの開催
- ・寄木新聞発行・・・コミュニティー誌
- ・ワークショップ次年度計画策定

## ◎持続可能な産業の創出

- ・羊毛とシルク(南三陸町産)紡ぎ糸の生産開始
- ・羊毛を活用した南三陸ギャッベ・キリム(織物・絨毯)試作開始
- ・南三陸わかめ羊肉・・・銀座三笠会館で導入及び長期支援
- ・わかめ飼料の牛での予備実験開始

## ◎持続可能な自然との共生

- ・山林10h管理委託受託・・・今後30hを目指す
- ・堆肥の無料配布
- ・ビオトープ設置

## ◎地域社会のデザイン

- ・寄木地域の土地の活用調査
- ・羊牧場が与える環境負荷の調査
- ・統計調査等の次年度計画策定



## 社会実装・成果の活用イメージ

本プロジェクトは、東日本大震災の被災地の中でも過疎高齢化が進んでいる地域をフィールドとし、今後の地方都市・地域の課題の一つである過疎高齢化を、羊というアイテムを活用する事で、多世代が共に繋がる事の出来る持続可能な社会の実現を目指す。また、他地域での実装及び展開に向けた、一般体系化を心がけ、持続可能な都市・地域の新たなデザインを提示を目指す。また、本プロジェクトは、対象地域に実装しながら、研究開発を進めていくものである。